

カブトムシが心配！

伊達市立富野幼稚園（福島県伊達市）

[4・5歳児]

5月頃、近隣の農家よりカブトムシの幼虫をいただいた。昨年度は1匹のカブトムシが土から出てきた時に「他のカブトムシも、もう出たいのではないか？」と考え、土から出したことでカブトムシが2・3日後に死んでしまった。そこで今年度は、土から出てくる様子などそれぞれの子どもが自分のカブトムシを見て、いろいろ考えてかかわるようするために、一人ずつ飼育ケースで飼える環境を準備した。

太字=幼児の気付き・思い 青字=まとめにつながる保育者のかかわり

| 気付き・活動 | 幼児の言葉・姿 4歳=④ 5歳=⑤ 保育者=T | 環境構成☆ 保育者のかかわり○ |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カブトムシの家を作ろう | ⑤知ってるよ！カブトムシの幼虫だ！ ⑤速い、速い！！ ⑤頭からもぐっていくね。 ⑤まぶしいよって言ってるよ！ ⑤すごい速い！ | ☆近隣の農家からいただいたカブトムシの幼虫を提示する。 ○興味をもてるように、「これ、なーんだ？」と幼虫を見せて問い合わせる。 |
| カブトムシや家の様子を見る | ⑤土の上に幼虫の歩いた跡があり、気付く。 Tみんないる時には出てこないのにね。 ⑤恥ずかしいんじゃない？ ⑤みんななくなったり、夜になると出てくるんだ。 ⑤土に絵を描いているんだよ。 Tそうかもしれないね。明日はどうなっているか楽しみだね。 ⑤迷路みたいだね。 ⑤トンネルになっている所もある。 | ○幼児の気付きや言葉に共感し、受け止める。 |
| 自分のカブトムシを飼う | ⑤僕のカブトムシだよ。 ⑤この前より茶色くなったね。 ⑤あ、お尻の方が黒い。 ⑤ねえ、みんな！カブトの幼虫がウンチしてるぞ！ ⑤足はオレンジ色だったよ。 ⑤丸まってたよね！ ⑤体に茶色のテンテンがあった。 ⑤土の中に大きな穴を見つけて「穴でお家を作ったのかな…？ 口で土が落ちないように固めているんだよ！」 ⑤土の上に出てきた幼虫を見つけて「暑いよーって出てきたんじゃない？土の中はあったかいから」 ⑤幼虫をじっと見て「何でピカピカ光っているの？きれいだね！」 | ☆一人一個の飼育ケースを用意。 ☆廊下に飼育ケースを置く台を作り、観察や世話をしやすいようにする。 ☆自分の気付いたことを絵や言葉で自由に描ける小さな紙を置く。 ○幼児の絵や言葉を受け止めたり、表現しやすいように問い合わせたりする。幼児の言葉を書きとめる。 ☆描いた幼虫の絵を掲示する。 ○幼虫を見て幼児なりの思いで一生懸命考え、表現する言葉を受け止めながら、一緒に霧吹きをしたり図鑑で調べたりする。 |
| 腐葉土の変化に気付く・世話をする | ⑤ウンチあった！と見つける。 ⑤図鑑で幼虫の糞について調べる。 ⑤土を食べ、土の上で糞をすることを知る。 ⑤糞を割り箸で取り除き、新しいきれいな土を入れる。 ⑤毎日、糞取りをする。 | ○子どもと一緒に図鑑で調べる。 |
| 虫の変化に気付く・考える | ④カブトムシがサナギっぽいよ！ T本當だね。色が変わってきたね。 ⑤茶色いね！すごいね！ ⑤どうして赤くなったんだろう？ ④あのね、サナギになったんだよ！こうやって（体で表現）脱いだんだよ！幼虫の服をこうやって脱いだんだよ！ ⑤角があるよ！ ⑥角があるからオスだね。 ⑤保育者の話を聞き「どうやって穴作ったの？」 ⑤土の上に出てきた幼虫を見つけ、「穴が作れないんだよ」「穴作ってあげようよ」 | ○幼児の発見と喜びに共感し、具体的にどうなったのか言葉で表現する。一緒に見てきた図鑑で見比べて確認や期待をすることで、幼児の好奇心をより深めていく。 ○休みの日、幼虫が穴を作れず土の上に出ていたので保育者がサナギになれる穴を作ってそこに幼虫を乗せたことを話す。 |

| | | |
|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 白いサナギ発見！ 疑問をもったり、予想したり考えたりする | <p>⑤作ってあげた穴でサナギに変化している所を発見する。 皮を脱いでいく様子を観る。 ⑤白いね！ ⑤真っ白だ！ ⑤（線がある）背中は幼虫みたいだね。 ⑤Aさんは茶色いサナギなのに、どうして？ ④体をクネクネして、皮を脱ぐんだね。 ⑤角があるから男の子だね。 ⑤だんだん色が変わっていく様子を目の当たりに見て 「もう茶色になったね」</p> | <p>○「どうして白いの？」という疑問に答えを出さず、共感するかわりをする。</p>  |
| 黒くなったカブトムシ発見！ 喜んだり疑問をもったりする | <p>⑤両面ガラスの薄い飼育ケースのサナギが黒く成虫になっているのを見つける。 ⑤カブトが黒くなった。 ⑤黒いよ！ カブトムシだ！ ⑤もう、カブトになったんだ。 ⑤土からどうやって出てくるのかな？</p> | <p>○毎日見てきたカブトムシの幼虫が成虫になった喜びを、保育者も共感する。 ○クラス全体に知らせ、喜びをみんなのものにする。</p> |
| 心配！ カブトムシの異変に気付く 疑問をもったり、思いやったり、原因を考えたり、振り返ったりする | <p>⑤数人の幼児の飼育ケースは、しばらく何の変化もなく、幼虫の姿も見えない。 ⑤私の幼虫が心配。中を見てみたい。 ⑤どうなってるかな？ ⑤ケースを開けて幼虫を見てみると、幼児が心配していた通り、幼虫が黒くなって死んでいるのを見つける。「死んじゃった…」 ⑤ショックを受けながらも、疑問をもつ子どもたち「どうしてだろう？」 ⑤俺、水はちゃんとかけてたのに！ ⑤R君のは、何か緑色になってる。 ⑤同じように死んでしまっている幼虫の写真が載っていて「これだ！」と興奮する子どもたち。土の中のカビが原因であることを知る。 ⑥「これが…」「これだったのか…」と落胆しているものの原因をつきとめ納得したようである。</p> | <p>○事前に中を見て、幼虫が死んでしまっていることに気付いていたが、幼児が疑問に思うまで様子を見守る。 ○疑問を解決できないかと考え、「どうしてだろうね。図鑑で調べてみようか？」と保育者から投げかけてみる。 ○「みんなは一生懸命お世話をしたけど、幼虫はカビに負けちゃったんだね」と、幼児の気持ちに寄り添い、悲しい事実を受け止められるようにかかわる。また子どもたちが考えることを大切にし「どうすれば良かったのかな？」と投げかける。</p> |
| カブトムシ出したい！ 小学生に相談する | <p>⑤大きな飼育ケースの中で、黒くなった成虫だが、出てくる様子はない。しかし、もう出してみたい。 ⑤1年生から昨年の話を聞き「もう少し待った方がいい」と「自分から出てくる」ことを知る。</p> | <p>○昨年、早く出したことでカブトムシは死んでしまった。そのことを思い出して飼育できるように、「1年生に聞いてみようか？」と、投げかける。 ☆1年生になった子どもたちに相談する場面を作る。</p> |
| カブトムシ発見！ 感動する | <p>⑤一匹のオスの成虫を子どもたちが発見し感動する。 ⑤自分の力で出てきたんだね！ ⑤すごい！ かっこいい！</p> | <p>○成虫の発見を幼児と共に感動し自分で出てくるまで待ったことが、正しかったと確信できるように援助する。</p> |

まとめ

子どもたちは疑問に思ったことを素直に言葉に出している。その疑問に答えられるだけの知識を、保育者自身がもつことは大切である。しかし、その知識を直接教えてしまうのではなく、一緒に考えたり調べたりできるような機会や、その感動と一緒に共感する大人の存在が、幼児の好奇心や探求心を深めることにつながると考える。また、失敗をそのままにせず、幼児の学びの場として捉え、かかわっていくことで、幼児の関心を深め、次への期待・希望へつなげていくことができるのではないかと考える。そのためには、**保育者も幼児と共に学んでいく姿勢**が大切である。

ポイント

子どもたちは土の上の糞やなかなか土から出てこない虫に関心をもち、考えたり調べたりして自分たちがどのようにかかわればよいか試行錯誤しながら世話をしています。飼育物への愛情ある丁寧な観察と図鑑などからの情報を得ることにより、毎日必要な世話や生き物の状況に応じたかかわり方を自分たちで獲得し、友達と飼い方を共通理解していく中で「科学する心」が育まれています。